

怨親平等

今回の怨親平等は、敵味方を分けずに、死者を弔

う事をいいます。同じ念仏を称える時宗が特に有名です。中世の戦乱で多数の死者が出て、弔われずにいた遺体がたくさんありました。時宗の僧達は、これを敵味方を分けずに弔い、念仏を称えたのです。時宗の総本山遊行寺には、応永二三年（二四一六）の前関東管領上杉氏憲と鎌倉公方足利持氏による戦乱の死者を供養した敵味方供養塔（怨親平等碑）があります。碑文には、

南無阿弥陀仏

応永二三年十月六日より兵乱、同二四年に至る。在々所々において、敵御方箭刀水火のために落命せる人畜の亡魂、皆悉く浄土に往生せしめん故なり。この塔婆の前を通る僧も俗人も十念あるべき者なり。

応永二五年十月六日



現代にこそ大事な思想ではないでしょうか。



赤ちんにも
自鼻くそがまざる
鼻えに感動して
しまつた、
奪取

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

隠密

隠密という
と、忍者や虚
無僧が浮かん



で来るのではないのでしょうか。実はこの意味で用いられるよりもずっと以前から仏教では隠密を用いていました。仏教の隠密とは、お釈迦様がお説きになられた教えには表に現された教え（顕彰）と、裏に記された教え（隠密）があると經典の研究がなされたのです。お経にはこう書かれているけれども、実はこのような真意があつたのだと。我々でも、おへそを出して寝ている子供に、親が「雷様にへそを取られるわよ」と本当に取りられることはないけれども、風邪をひかないように裏腹なことをいうことがあります。同じように經典の文字の奥に真意があるのでと、様々に解釈があるのでないかと、研究がされたのです。

親鸞聖人は、観無量寿経を伺うと顕彰と隠密があり、お経の言葉だけを見ると修業と自力念仏が説かれているが、実は他力の念仏が明かされていると読まれました。



この隠密が、物事を包み隠すことから転じて、諸方で情報収集をする忍びのことを隠密と呼ぶようになりました。